

神戸川の水環境に関する専門委員会「意見発表」の概要(まとめ)

資料-5-3

会場	① 第2回専門委員会	平成24年 9月30日(日) 朱鷺会館(出雲市) 15:05~16:05
	② 第3回専門委員会	平成24年10月12日(金) くにびきメッセ(松江市) 15:45~16:40

会場	発言者	職名等	意見の概要
①	深井徹郎氏	神戸川来島ダム水利等調整委員会委員 中流域(農業)	・平成10年以降だと思われるが、来島ダムの底水が出るという話が出るようになった。志津見ダムができれば水質が改善されるだろうと期待しているが、解消されず、澱んだ状況と川面が黒くなった状況。
			・窪田、乙立の両発電所取水堰で、これまでは100%取水し、直下流に水無し区間があったが、先般両堰とも改善された。
			・来島ダムの竣工から数十年前までは、環境放流というものがあまりされていなかった。県も、中電もそういった認識が本当に薄かった、或いは、なかったのではないかと。
			・馬木の水量が確保され、来島ダムが放流を止めると中流域では急に水位が下がる。ダム直下流への影響も考慮した両ダムの運用が必要。
			・潮発電所の取水口は、来島ダム上流3kmとかなり上流にある。環境放流される来島ダム付近の水は長期貯留水。これが水質悪化の最大の原因ではないかと。
①	岩崎知久氏	NPO法人しまね体験活動支援センター・事務局長 環境活動	・2002年から述べ1万人を越える子供たちが水質調査を実施。この斐伊川・神戸川流域環境マップづくりを通して、10年前とここ1~2年を比較すると、精度の問題はあるが、神戸川の水質は少し悪化。
			・『生き物が暮らしやすい川』を作るためには、安定した水量の確保、水質の保全が必要。例えば、自然エネルギーを使ったダム水の水質浄化や、数年間をかけてダム水を試験放流し河川に生息する生物と水量の関係を科学的に調査することなどが必要。
			・『誇りに思える川づくり』を目指して、協働による水辺や河川景観の維持、緑のダムである山の環境保全など、流域住民と行政で取り組んでいくことができるのではないかと。
①	林要一氏	神戸川再生推進会議・会長	・我々が60年間、誠心誠意国策に従って協力した。その代償として、神戸川が残念ながら死の川になった。流域住民は慚愧に堪えない。
			・河川管理基本計画法及び自然再生推進法に基づき、管理者は自然環境に係る計画を策定し、管理すべき。
			・橋波の方で子供が川で泳ぐのに古着を着せられている。いかに川が汚れているかということ。
			・八神地区と馬木地区において流量不足していた日があり、両地区の記録が約7年間記録がないとのこと。県は河川管理者としての責任を果たせていない。
			・馬木地点では、放水路の関係で下流の川幅が4倍に広がったため、正常流量の4.4m ³ /sでは流れない。古志橋周辺の合流点から下流はほとんど水が動かず、いわゆる沼のように、澱んでいる。

会場	発言者	職名等	意見の概要
②	片寄巖氏	神戸川漁業協同組合・組合長	・生態系としての川は決定的なダメージを受け、近年の温暖化、森林の荒廃などによる保水力の低下、そしてダム直接的な影響と複合作用し、環境の悪化を複雑化している。
			・来島ダムの上流部から流量の87%を江の川の潮発電所に使っていることが水量が激減した最大の原因。色々な意味で神戸川の水は神戸川で使ってほしい。
		漁業(川)	・来島ダム下流には窪田、乙立発電所の2つの減水区間が存在し、合計3つの発電所で最大毎秒23.5トンという大きな水を使っている。これにより、慢性的な水不足を起こしており、魚類の生態系に及ぼしている影響は非常に大きい。
			・アユの稚魚が、神戸堰下流に下がっていく段階で、卵黄が十分ある正常なものは、4%にすぎない。河川の水が少ないことを確実に表している数字。 ・専門委員会では、色々な場所のデータを取り、様々な方々の意見を聞いていただいた中で、特に10年、20年後を見据えたよい結果の判断をしていただきたい。
②	小川弘知氏	長浜自治協会・会長	・近年、レガッタ大会を通じて、神戸川に触れ合う機会が増えてきたが、今の神戸川の水には「ぬめり」や「にごり」がある。レガッタ艇の清掃の際、高压洗浄機ではぬめりが取れず、雑巾がけをして初めてふき取ることができる状況。
			・昭和40年代半ばまでは、神戸川で泳いでいた事実から見ると、それまで神戸川はきれいな状態であったのではないかと。
		下流域	・神戸川電源開発が示された時点から、水量減少により河口閉塞がさらに悪化するのではないかと懸念があった。
			・全国的にはハマグリは1980年代からと言われているが、外園海岸においては、それよりも早く昭和40年代から。また、この1、2年ほどはほとんど獲れない。
②	空岡健氏	志津見ダム周辺活性化総合整備推進委員会・委員	・小学生の頃は、夏休みになると毎日神戸川で泳いでいた。当時は、深い所、急な瀬が多くて怖い思いもしたが、現在は、昔あった瀬や淵がほとんどなくなっている。
			・八神地区の方は長年神戸川で魚釣りをしていたが、最近は魚がいないとのこと。特にアユの大きなものが全くいない。
			・志津見地区の方で今年6月下旬、日が暮れてちょっと暗くなったところ、明らかに色が違う水が流れてきた。黒く濁った水だったとのこと。
		上流域	・5月になってから毎日神戸川を見ているが、川の水は明らかに不透明な時がある。支川は湯水であるのに対し、理由は不明だが、ここ2週間ほどは、神戸川の水の量は少しずつ多くなってきているように感じる。
			・少しでも50数年前の神戸川に戻していくためには、神戸川に流す水量をもっと増やすことや、山林を活性化させ、山林から流れ出る水の量を増やすことを考えるべき。